



高専改革に向けて

谷口 功 TANIGUCHI Isao

1975年東京工業大学理工学研究科化学工学専攻博士課程修了。

1977年熊本大学工学部助手、1979年同講師、1990年同教授、2002年工学部長を経て、2009年学長に就任。

(2006年より日本学術会議連携会員)

2011年～2015年国立大学協会理事

(2013年～2014年同副会長)

2015年熊本大学顧問・名誉教授／

(公財) くまもと産業支援財団・名誉顧問

2016年独立行政法人国立高等専門学校機構理事長に就任。

専門分野は、電気化学 特に、生物電気化学

産業界を支える人「財」育成

高等専門学校（高専）の歴史は、昭和37年に12の国立高等専門学校が創設されたことに始まります。日本の高度経済成長に歩調を合わせ、実践的技術者の養成という産業界の強い期待に応えつつ、今日まで、時代に即した人材育成に邁進して参りました。その中で高専は、5年一貫の教育でその質を保証する我が国のユニークな教育制度に基づく人材育成の場として大きく発展してきました。今日では、輩出した人材の材の文字は、まさに社会の財産として「財」の文字を当てるのがふさわしいと考えています。

高度化した産業社会における今日の高専の使命は国際社会を視野に入れて活躍できる「創造性のある実践的技術者の育成」にあります。高専卒業生は幸いにも国内外の各界から極めて高い評価をいただいております、この使命を十分に果たしてきたものと確信しています。これは高専発足以来の50年以上にわたる歴史の中での教職員の皆さまの努力と、卒業生の社会での活躍の結果であり、また産官学の各界からいただいた強力なご支援の賜物です。ここに改めて関係の皆様に対して心より敬意を表し、かつ、お礼を申し上げます。高専は、これからも、社会で活躍する人材から社会の財産として高度な産業社会の発展を担い牽引する人「財」の育成に最大限の努力をして参ります。

変革の先頭に立つ

我々を取り巻く社会の環境は急速に変化しています。特に、高専創設当時と比べると、社会のグローバル化が進み、科学技術の急速な進展や産業構造の著しい変化、大幅な若年人口の減少など、国立高専を取り巻く環境も大きく変化しています。一方で、この変化は高専にとって新しい飛躍のチャンスでもあります。この意味で、今日の国際社会の中で活躍できる「高専スピリット」を持った人「財」、すなわち、現実を直視して創意工夫しながら目前の課題を克服していくチャレンジ精神とそれを成し遂げるだけの高いレベルの専門的の力を備えもった人「財」になるという高い志を持った創造的かつ実践的技術者の育成を担い、また担ってきた高専の役割は今後益々重要になります。この社会の期待に応えるためにも、我々を取り巻く社会環境の変化に機動的に対応し、高専の果たすべき役割をしっかりと見定め、常に主体的に組織を見直し、より良い方向へと自己変革・進化して参ります。これまでの実績を踏まえて、我が国の将来を担う人「財」の育成のために、組織はもとより教育内容の高度化など、その変革の先頭に立って取り組むことが理事長に課せられた任務と考えております。広く関係各界との連携・協力のもと国際的な視野に立った未来志向の取り組みを進めて参ります。高専に対する皆さま方の一層のご理解とご支援をお願い申し上げます、就任のごあいさつといたします。